



特集 命の温かさに触れる

佐世保市には、核家族や転勤・配偶者の長期不在などによって、子育てを一人で担っている家庭が多くあります。また、少子化に伴い、兄弟がおらず乳幼児と関わる機会が少ない小学生も多くいます。このような状況を踏まえ、本市では、赤ちゃんの保護者と小学生との交流を通して、一緒に命や家族・子育てについて考える「赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業」を平成27年度に始めました。

平成30年度には本市と西南学院大学が包括的連携協定を締結し、同事業の取り組みを強化しつつ継続。10年目を迎えることし、初めて事業に関連したフォーラムを開催します。

今回の特集では、「赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業」の内容や参加者の声、これまで同事業に取り組んできた西南学院大学大学院の教授に伺った話などを紹介します。



赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業

目的

赤ちゃんの保護者

- 親としての喜びを感じる
- 自分の子育てを振り返る
- 自分の子どもの成長や将来をイメージする
- 小学生と関わることで地域の一員としての存在を意識する

小学生

- 命の大切さ・尊さ・不思議さを知る
- 相手を思いやる気持ちを知る
- 自分の家族(親)との関係を考えるきっかけとなる
- 親の思いを知る
- 将来の子育てを体験する機会となる

行っていること

① 事前学習(小学生)

小学生は事前に、赤ちゃんとの触れ合い方や人形を使った抱っこの仕方を学んだり、赤ちゃんが生まれたときのお母さん、お父さんの気持ちや参加する保護者の気持ちを考えたりする授業を受けます。



② 親子と小学生の交流

小学生5、6人と親子2、3組が1グループとなります。小学生は赤ちゃんと遊んだり、赤ちゃんの保護者から子育てや赤ちゃんについての話を聞いたりして交流します。



③ アンケート

事業の実施前後でアンケート調査を実施します。前年度参加者の声を一部紹介します。

参加した赤ちゃんの保護者の声

- 小学生からの質問でわが子について考える機会になった。もっといろいろな子と触れ合ってみたかった。
- 質問をもらったり、兄弟のいない小学生の話を聞かせてもらえたりして、とても楽しい時間だった。
- 恥ずかしがりながらも一生懸命関わろうとしてくれている子どもたちを見てると、自分もすごく前向きな気持ちになった。

参加した小学生の声

- 赤ちゃんを抱っこしてみたり、手を握ったりして、しっかりとした命を感じた。
- 自分の親も大変だったことを知り感謝して、1日1日を大切にしたいと思った。
- 赤ちゃんが苦手だったが、事業を経験して赤ちゃんが好きになった。
- 自分にもこんな時があったんだと改めて思った。一緒に遊んでとても楽しかった。

佐世保市と事業の共同研究を行っている専門家に話を聞きました

佐世保市は、平成30年度に西南学院大学と、教育研究や子育て支援などに関する包括的連携協定を締結しました。赤ちゃんふれあい事業は、協定の中で佐世保市と西南学院大学が共同で行っている事業で、西南学院大学大学院の門田教授は協定締結前から本事業に携わっています。

赤ちゃんの命の輝きから学べることは たくさんあると思います

西南学院大学大学院 門田 理世 教授



命を大事にする優しい人になってほしい

本事業は、佐世保で起きた悲しい事件をきっかけとしています。思春期に入る前に、命の大切さについて考える場を設けたい。赤ちゃんの命の輝きから小学生が学べることはたくさんあると考え、この事業は始まりました。

何より、佐世保市の子どもたちが命を大事にする優しい人になってほしい。そして、思春期に入る前の小学5、6年生に、子育ての楽しさや大変さ、戸惑いなど子育てをする親の等身大の姿を知ってもらいたいという願いがこの事業には込められています。

事業を通して、小学生が赤ちゃんを「守らないといけない、大事にしないとけない」存在として認識するようになってきました。また、保護者からは「自分の子どもが小学校に上がった時のことが想像できる」「安心して小学校に預けられる」といった声が上がってきています。この研究結果は、事業を10年間にわたって継続したからこそ見えてきた成果だと考えています。

継続して実施することで地域がつながる

子どもたちの成長を育む事業は、継続して実施することに非常に大きな意義があると考えています。佐世保市全ての子どもたちに赤ちゃんから学ぶ経験をしてもらいたいですし、幼児教育センターが命の大切さを伝え続けてきていることを知ってもらえたらうれしく思います。実際に「私たちの学校でもやってみよう」と小学校の校長先生からの問い合わせが徐々に増えてきていると聞いています。

長く実施していると、この事業に保護者として参加され

た人が開催場所となった小学校の校長先生の教え子だったり、実際に参加された人から「赤ちゃん事業っていいらしいよ、私も行ってみようかな」という声があったりするなど、学校や子どもを通して地域がつながる機会をよく見聞かします。10年を経て、この事業で赤ちゃんの保護者、小学生、学校の先生など、地域が赤ちゃんを通してつながり始めたという実感がようやく出てきました。

赤ちゃんは一緒に生きている社会の一員

小学生が、高校生になり大学生になり親になる世代になったときに、地域社会が子育てに取り組み、子どもを大事にすることの意義をどう捉えるか。とても大切なことだと考えています。それが、赤ちゃんのにおいや抱っこした時の柔らかさ、赤ちゃんの保護者の話から学んだことであったら、これほどうれしいことはありません。

事業に参加する小学生の中には、赤ちゃんに対して苦手意識のある子が毎年少数います。育児をするかどうか赤ちゃんを好きか嫌いかということは誰かに強制されるものではありません。ただ、命はみんなで大切に育てていくものであることを、自分の身近なこととして知ってほしい。赤ちゃんも自分が生きている社会の一員であると思ってもらうことは、命を大切にしていく上で重要だと思います。

赤ちゃんの命の輝きに触れ、保護者の思いを感じながら小・中学生と一緒に成長する。命を大切にできる優しいまち佐世保の基盤作りとして、この事業をこれからも続けていってほしいと思います。

(取材日 6月24日)

赤ちゃんフォーラムを開催します



本市での子育てや地域で子どもを育てることについて、各関係機関やさまざまな世代の市民と一緒に考えます。参加をお待ちしています。

日程 9月22日(日) 14時~15時30分

場所 アルカス SASEBO

内容 【1部】赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業について
【2部】佐世保での子育てについて考える(シンポジウム)

対象 乳幼児とその保護者、事業参加の小・中学生とその保護者、子育て支援施設関係者、子育てに興味や関心のある人など

料金 無料

定員 先着 200人程度

申込 8月13日(火)以降に電話か申し込みフォームにて



市HP
(赤ちゃんフォーラム)

事業の様子を動画でプラス



6月19日(水)に木風小学校で行われた事前授業の様子と、6月26日(水)に行った赤ちゃんふれあい事業の様子、赤ちゃんの保護者・小学生・幼児教育センター職員のインタビューを動画でお届けします。

今月号から動画が新しくなりました

市内高等学校の生徒をナレーターに迎えた、新しい動画シリーズ「広報させぽ+」^{プラス}。毎月1本公開します。どうぞご覧ください。



YouTube「佐世保市チャンネル」
広報させぽプラス

幼児教育センターに遊びに来てください



幼児教育センターには、0歳~就学前までの乳幼児と保護者が親子で遊べる「きらきら広場」があります。楽しいおもちゃや絵本のコーナー、授乳室などもあります。親子で一緒に遊んだり、子育てする仲間を見つけてみませんか。子育て相談もできますので、ぜひ遊びに来てください。

開館時間 月~金曜 9時~16時

休館日 土・日曜、祝日、年末年始

場所 山祇町 387番地



市HP
(きらきら広場)